

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

〈函館の子どもの特徴〉

- 授業の中で、1人1台端末を活用して情報を収集することや、友達（生徒）と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている。
- いじめは許されないという意識が高い傾向にある。
- 算数や数学に一層の努力が必要である。
- 学校の授業以外の学習時間が短く、自分で学び方を考え、工夫することに課題がある。

平均正答数・平均正答率

〈小学校〉

	国語	算数	理科
函館市	9.0問／14問 64%	8.3問／16問 52%	9.4問／17問 55%
全国	9.4問／14問 66.8%	9.3問／16問 58%	9.7問／17問 57.1%
全道	9.2問／14問 65%	8.8問／16問 55%	9.6問／17問 56%

〈中学校〉

	国語	数学	理科
函館市	7.3問／14問 52%	6.4問／15問 43%	491.0
全国	7.6問／14問 54.3%	7.2問／15問 48.3%	503.0
全道	7.6問／14問 54%	7.0問／15問 47%	505.0

※ 函館市、全道の平均正答率については、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を示しています。

上段：平均正答数、下段：平均正答率

※ 今後、本市の児童生徒の状況については、HPに追加して掲載してまいります。

※ 本市では、全国や全道の平均正答率と、本市の平均正答率に大きな差がなくなっていることから、令和3年度から「函館の子どもたちの特徴」を中心に公表しています。

※ 令和7年度から中学校理科の結果標記にI R Tが導入されたことに伴い、函館市における公表の仕方も変更しました。

★ I R T…令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」I R Tを用いた結果返却について

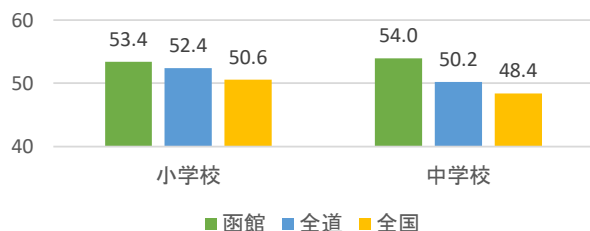
(文部科学省) https://www.mext.go.jp/content/20250710-mxt_chousa02-000043584.pdf

児童生徒質問調査の結果から見える成果

※ グラフについては特徴がわかるようにメモリを設定しています。

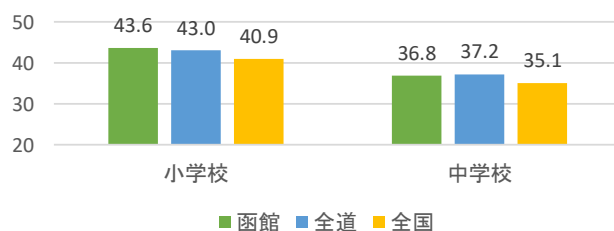
Q あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか

「とてもそう思う」と回答した割合



Q 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか

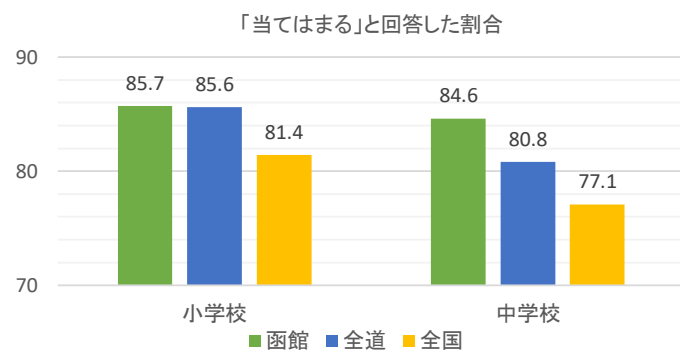
「当てはまる」と回答した割合



「あなたは、自分がインターネットを使って情報を収集することができますか」について、「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校で53.4ポイント（全国比+2.8ポイント）、中学校で54.0ポイント（全国比+5.6ポイント）であったことや、文章の作成、発表スライドの作成など、1人1台端末を必要に応じて操作できていると感じている児童生徒の割合は、全国を上回っています。

学校質問調査においても、自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）で、1人1台端末などのICT機器をほぼ毎日使用していると回答している学校の割合は、全国を上回っています。

Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で85.7ポイント、中学校で84.6ポイントと全国を上回っています。

学校質問調査において、「特別の教科道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」と回答した学校の割合は、全国を上回っています。

〈考察と今後に向けて〉

各学校において、授業で1人1台端末を活用し、児童生徒の主体的に学ぶ姿勢が育まれていることや、友達（生徒）との話し合いを通じて、協働的な学びが行われていることが成果として挙げられます。

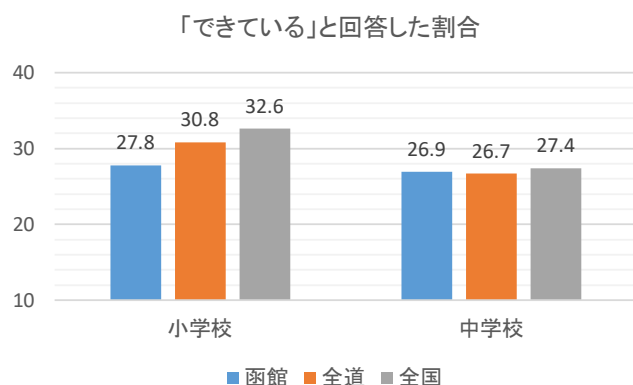
一方、各教科で、授業内容がよくわかると回答した児童生徒の割合が全国を下回っていることから、ICT機器の活用や協働的な学びについて見直し・改善を図る必要があると考えられます。

市教委といたしましては、学校訪問等を通じて各学校における見直し・改善の状況を把握するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による授業改善が推進されるよう各学校に働きかけてまいります。

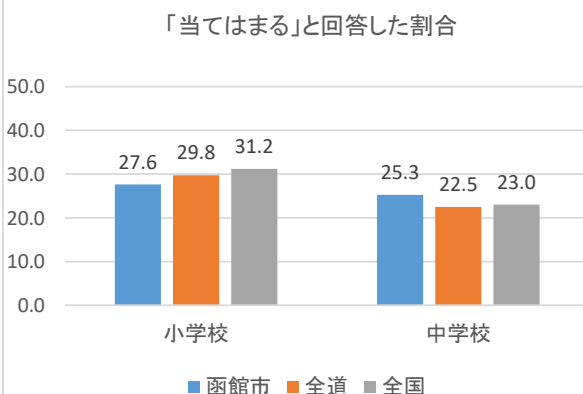
また、引き続き「いじめ等の問題を考える集会」の取組等を通じて、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めてまいります。

児童生徒質問調査の結果から見える課題

Q 分からないことや詳しく（詳しく）知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



Q 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



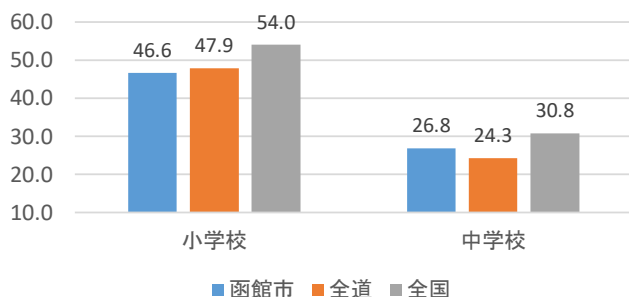
「分からないことや詳しく（詳しく）知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」について、「できている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で27.8ポイント、中学校で26.9ポイントとなっており、全国を下回っています。

学習した内容を見直し、次の学習につなげることができるかということについても、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で27.6ポイント、中学校で25.3ポイントとなっており、およそ4人に1人の割合に留まっています。

これらのことから、自ら課題を見つけたり、課題を解決するために学習をどのように進めていくとよいかを考えることに課題がみられます。

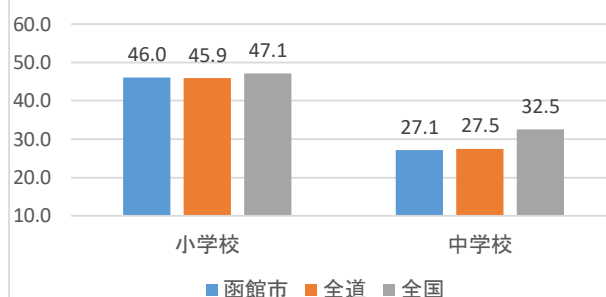
Q 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学生 1時間以上 中学生 2時間以上 と回答した割合



Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学生 1時間以上 中学生 2時間以上 と回答した割合



普段（月曜日から金曜日）に学校の授業時間以外に勉強する時間として、小学校で「1時間以上」と回答した児童の割合は46.6ポイント、中学校で「2時間以上」と回答した生徒の割合は26.8ポイントとなっており、全国を下回っています。

土曜日や日曜における勉強時間についても、全国を下回っています。

〈考察と今後に向けて〉

家庭での学習時間において、全国と差が見られることから、放課後の過ごし方に課題があると考えられます。

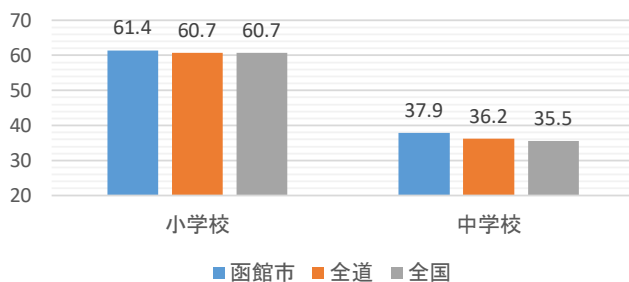
今後は、生活リズムの向上を図り、放課後の過ごし方の見直しについて家庭に働きかけていくとともに、望ましい学習習慣の確立を促してまいります。

授業においては、児童生徒の主体的な学びを支援する伴走者としての教師の役割を踏まえつつ、効果的な端末の活用実践を通して、児童生徒の主体性を育むよう努めてまいります。

その他の特徴

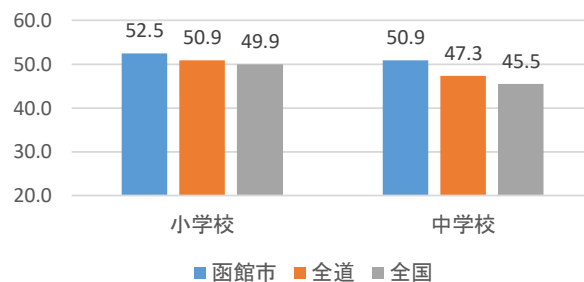
Q 将来の夢や目標を持っていますか

「当てはまる」と回答した割合



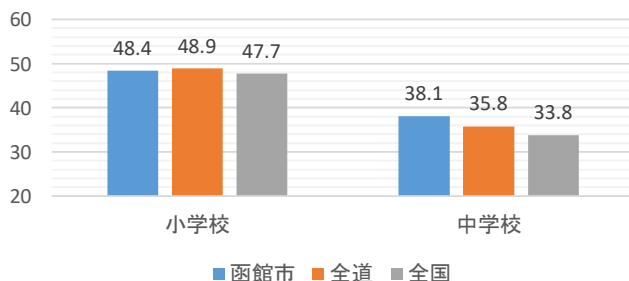
Q 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

「当てはまる」と回答した割合



Q 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

「当てはまる」と回答した割合



Q 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

「当てはまる」と回答した割合

